



笑顔で働くための健康づくり

健康経営

事例集

群馬県内

令和3年度
実践企業

15社



全国健康保険協会 群馬支部
協会けんぽ

健康経営 事例集



群馬県内 実践事業所のご紹介 【五十音順】

ナンバー	事業所名	ページ
FILE 01	株式会社 板垣	1
FILE 02	三陽技術コンサルタンツ 株式会社	3
FILE 03	システムセイコー 株式会社	5
FILE 04	社会福祉法人 しもにた会	7
FILE 05	昭和金属 株式会社	9
FILE 06	株式会社 成電社	11
FILE 07	千代田工業 株式会社	13
FILE 08	社会福祉法人 にしあがつま福祉会	15
FILE 09	日涉運輸 株式会社	17
FILE 10	株式会社 藤井経営	19
FILE 11	マルエス 合資会社	21
FILE 12	美峰酒類 株式会社	23
FILE 13	株式会社 ミヤマ電子	25
FILE 14	株式会社 山田工務所	27
FILE 15	社会福祉法人 若葉福祉会若葉保育園	29
Index by keyword		
健康経営キーワード別索引		31

はじめに

全国健康保険協会(協会けんぽ)群馬支部では、職場の健康づくりに取り組む企業を「生き活き健康事業所宣言」企業として登録をし、健康づくりの応援、サポートをしております。

「健康経営®」は従業員の健康促進によって、企業の生産性向上、人材確保や定着、企業のイメージアップ等の期待ができ、企業におけるリスクマネジメントとしても重要となっております。

このたび「生き活き健康事業所宣言」に登録し、積極的な取り組みを行う15社のご協力のもと、健康づくりに関する「取り組み事例」をまとめました。本事例集を貴事業所における健康づくりの参考としていただければ幸いです。

“心身ともに「健康で」「元気に」「長く」”を合言葉として、健康寿命の延伸に取り組みましょう。協会けんぽ群馬支部は、職場の健康づくりに取り組む事業所様をしっかりとサポートさせていただきます。

令和3年11月

全国健康保険協会群馬支部
支部長 下田 正宏

※「健康経営®」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です



社員が運営する菜園クラブは、たくさんの収穫物で皆をよろこばせている



37店の店舗展開を支える、

社員の健康管理

導入の契機

社員一人一人を大事にすることから、お客様へのよいサービスが生まれる。この信念から健康管理を重視した経営を行ってきた。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断の完全受診
- ② 要精密検査の全員受診
- ③ 生活習慣病予防のため、特定保健指導
- ④ 専門医の指導で重症化の防止
- ⑤ 活発な部活動で体力づくりや親睦

健康な社員が企業経営の第一歩

株式会社板垣は、群馬を中心に、長野、埼玉、栃木に「メガネ・補聴器の板垣」として37店舗を展開している。近年個別指導の学習塾、ITTO個別指導学院を創設し、現在7カ所に広がっている。大正13年の創業で、県内屈指の老舗眼鏡店として知られ、ファッション性の高いブランド品から、手軽な日常用まで幅



▲眼鏡はお客様との会話、聞き取りが重要で、社員のコミュニケーション能力が求められる

広い品揃えで確固たる地位を築いている。

お客様との適切なコミュニケーションや、状況に応じた提案力が重要で、社員には高い資質が求められる。最新の商品知識はもちろん、お客様の気持ちに沿った的確な対応には「健康さ」が極めて重要だ。そのため同社では、心身共に健康管理に特段の力を入れ、取締役を責任者として配置し、組織的な取り組みを行っている。

早期発見、早期対応、的確なアフターフォロー

社員の健康管理のベースとなるのが、健康診断である。ここで得られたデータに基づき、専門医の指導に応じて迅速に対応することが求められる。健康管理担当の大澤努取締役管理本部長はスピードの大事さを次のように語る。

「一例ですが、要再検査や体の異常を、軽く見る人が少なくありません。仕事

ができていると再検査をつい先延ばししがちです。それが重症化を招きます。しぶしぶクリニックに行ったら『このままでは命が危ないよ』と医師に言われて愕然としたケースもあります。

また、親睦と運動、心の健康を兼ねて『菜園クラブ』を社員が運営しています。自然に親しむことが、健康増進に役立っています」

別に、『人事部ニュース』では「健康のためのワンポイント」のコーナーを設け、生活習慣病予防などの諸注意を紹介している。

スポーツに親しみやすい社風

板垣雅直社長は元ラグーマンで社会人スポーツに理解が深い。同社には野球、バドミントン、自転車などのチームがある。また、ザスパクサツ群馬などの後援団体になるほか、社内のボウリング大会など、社員が



▲バドミントンサークル

スポーツをやる環境が整っている。

また、専門医による、メタボ防止の食事指導や、生活習慣病改善のアドバイスを受けている。

こうした総合的な健康管理の結果、同社の健康指標は、改善の方向に向かっており、経営上の大きなメリットになっている。

普段から健康を意識した食事や運動の習慣をつけることが第一です。早期発見、早期対応によって、本人はもちろん、企業経営にとってもコスト削減につながります。



健康管理担当の管理本部長
大澤 努 取締役

株式会社 板垣

メガネ・補聴器の販売

設立 1924年（大正13年）4月1日

代表取締役 板垣 雅直

従業員数 220人

〒372-0047 伊勢崎市本町4-26

☎0270-24-1746（代表）

🌐https://www.megane-itagaki.co.jp





紙ベースの文書をデジタル化した結果、オフィスのスペース効率が向上し、ストレスのない作業空間と、健康をサポートするアメニティー空間を確保することが出来た



特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断100%受診
- ② 産業医による健康アドバイス
- ③ メンタルヘルスのために、セミナーを開催する
- ④ 健康一般に関する情報提供
- ⑤ ヘルシーメニューの献立を配信している



導入の契機

オフィス、フィールドと多様な職場環境があるため、協会けんぽの生き生き健康事業所宣言の「健康ベースプラン」に基づいた従業員全体の健康管理の仕組みを構築した。

多彩な業務環境に合わせた、

健康管理を実施

豊富な健康情報を従業員に提供

三陽技術コンサルタンツ株式会社は、都市計画、環境調査から道路、公園、構造物などの設計など幅広いコンサルタンツ業を行っている。昭和39年に創業し、県内はもちろん、全国の行政、建築会社のコンサルタンツで厚い信頼を築いてきた。



▲親睦のための社員旅行（現在は新型コロナのため見合わせ中）



▲社長から健康に関する講話を聞く従業員。話題は業務中の安全注意から、メタボまで幅広い



従業員の安全のために、災害時の食料・医薬品・水などを備蓄している▶

設計や分析などのデスクワークから、測量・調査といったフィールドワークまで職場環境が多彩で、その分従業員の健康管理には万全の体制を取ってきた。その結果、健康経営の各種数値で優秀な数字を達成している。

健康診断は100%受診し、要再検査が出た従業員についても、ほぼ全員の

再検査を達成している。ストレスチェックの結果により、面接指導を受け改善に努めている。また、吉岡社長の健康をテーマにした講話や、産業医、保健師などの専門家によるセミナー受講、必要な人は個人面談を行っているため、従業員全体が、高い健康意識を持っている。

文書デジタル化で、オフィス環境を劇的に改善

建築に関連する企業は、図面や法令集、技術図書などが多量に必要だ。同社は率先してそれら「紙」をデジタル化し、オフィスのスペースを、ほぼ倍に広げることができた。その結果、従業員のストレスを大幅に低減することが出来た。身体面でも歩く距離が増え、生活習慣病の予防にも役立っている。

また、万一の災害に備えた水や食料の備蓄、親睦と研修を兼ねた旅行を実施。長期的な観点から、従業員の心身の健康に配慮している。

ゆったりしたスペースで、ストレスも軽減

健康管理担当の総務課松井真由美主事は「デジタル化以前は、図面や図書などが至る所に積まれ、個人のデスクも書類の山といった有様でした。狭いところに

さらに押し込むため、必要なものが見つけられなかったり、閉鎖感などによるストレスも溜まっていました。それらがデジタル化で一掃されたので、開放的で明るくなりました。業務の効率もアップし、ストレスも大幅に減りました。健康に対しても、隠れた効果が大きいと思います」と改革の成果を語る。

現在従業員は、各人がiPadを携帯して業務情報を確認するほか、健康管理のためのニュースやお知らせも、端末で閲覧できるようになっている。

4年がかりで社内の文書管理を見直しました。スペースが広がり、必要な情報に即座にアクセスできるので、健康管理もより適切な対応ができると思います。



吉岡 慧治社長

三陽技術コンサルタンツ 株式会社

建設コンサルタント

設立 1964年（昭和39年）

代表取締役 吉岡 慧治

従業員数 68人

〒379-2154 前橋市天川大島町3-8-3

TEL 027-243-6211

http://www.sanyo-geo.co.jp





契約農家の畑で芋掘り体験をする社員と家族。収穫物は社員に配布され、健康と運動を両立させている



特に力を入れている取組内容

- ① 高い健康診断受診率
- ② ラジオ体操などによるリラクゼーション
- ③ メンタルセミナーの実施
- ④ 安全衛生委員会のイベント企画
- ⑤ 菜園で野菜収穫など家族ぐるみでストレス解消

導入の契機

精密機械や金型などを扱うため、社員が安心安全に働ける職場環境作りに尽力。協会けんぽの「健康ベースプラン」による健康管理に手応えを感じている。



▲生産ライン

システムセイコー株式会社は、高精度の加工部品から、半導体製造機や省力装置など、顧客の企画段階から設計に携わり、精度の高い製品を提供している。現在高崎市にある本社・本社工場のほか、前橋工場が稼働している。その高い成長を支えているのが、社員に対する手厚い福利厚生環境だ。健康面では、職場環境の隅々まで安全・安心を徹

底し、働きやすい現場を実現。健康診断と再検査はほぼ100%で、社員の健康管理の基礎データとして活用している。



▲ラジオ体操に一工夫加えた独自の体操

は、消毒、換気を徹底するほか、職場でワクチンの集団接種を行った。職場以外での感染予防のため、注意すべき事柄など、情報の共有を図っている。

安全衛生委員会も設置さ

れ、健康情報の提供を心がけている。例えば産業医に來社してもらい、社員が興味をもつようなテーマで職場セミナーを行っている。最近では新型コロナウイルスの話が多いが、季節性インフルエンザ、花粉症など季節ごとの健康管理の話は、高い関心を集めている。

協会けんぽから毎月情報

野菜畑でリラックス

提供される「メルマガ」を回覧・掲示し、健康に関する最新情報を社内へ告知している。

ストレス解消のため、例年は親睦会、社内ボウリング大会などを定期的に開催していたが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言などを考慮して自粛している。一方、三密にならない催し物として、会社近隣の野菜畑を借りて、収穫祭を行っている。家族連れで集まった社員は、広い畑に散らばり、そ



▲社員に配布される野菜。生活習慣病の改善にも役立つ

健診やセミナーなど医療的なイベント以外に、社員が菜園で芋掘りをしたり、収穫物を配ったり、メンタルな面でもリラックスできる環境を整えています。



前橋工場勤務
藤井 由宮子さん

システムセイコー 株式会社

半導体製造装置／電子部品製造

設立 1990年（平成2年）5月2日

代表取締役 細野 正己

従業員数 98人

〒370-3523 高崎市福島町713-5 ☎ 027-373-2625

〒379-2147 前橋市亀里町878 ☎ 027-226-1211

http://www.system-seiko.co.jp/





定期的に衛生委員会を開催し、健康経営について情報共有している

自然は元気を育み

心を健やかにする

導入の契機

利用者の尊厳や立場を重視した支援を行うために、心身共に健康な従業員と、健やかに働ける環境を整備するため。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断と産業医によるフォローやフィードバック
- ② 必要に応じて、抗原検査、およびPCR検査
- ③ 全従業員のストレスチェックとフォロー
- ④ 年間2回腰痛検査を行う
- ⑤ 夜勤をする職員の健康指導

「その人らしさ」を大切にした介護

鐺川の清流と、妙義山を遠望する緑豊かな里山の一角に、社会福祉法人しもにた会が運営する「かぶらの里」がある。要介護者で日常生活全般にわたって介護を必要とする高齢者の介護老人施設、短期的に施設に宿泊して必要なサービスを提供する短期入所生活介護（ショートステイ）、自宅から通ってデイサービス



▲親睦と運動習慣をつけるため、ボウリング大会を開催している



▲職員出入り口で各種の健康チェックを行い、データの集計を行う

利用者ニーズに応える 質の高い従業員を

を受ける通所介護、ケアマネージャーの居宅介護支援など総合的な介護支援活動を行っている。

施設のある場所は、四季折々の自然が美しいところで、入所者たちの目を楽しませてくれる。全館が平屋建てで安心感や、介護サービスの効率化を支えている。

従業員は専門技能を持ち、会のテーマである「その人らしさ」を大切にしながら生活支援を行っている。介護職、夜勤をする職位については、年2回の腰痛検査が義務付けられている。検査後に治療が必要な場合は、産業医のアドバイスに従って通院などをする。



▲事業所オリジナルプランや協会けんぽからの情報を掲示

を受け止める健康と、メンタル面の健全さが求められる。健康管理面では「衛生委員会」で特にメンタルヘルスの管理に力を入れている。

従業員の健康管理は、基本的に協会けんぽの生き生き健康事業所宣言の「健康ベースプラン」、また、介護施設の基準に従った検査や対処を行っている。定期健診の受診率は100%で再検査も同様だ。

近年は感染症対策委員会を設け、特に新型コロナ対策を行っている。委員会には看護師が含まれ、職員、利用者全員の検温データなどを県に報告している。職員は自宅を出る前の検温、職員玄関で検温と消毒を行い、所定の用紙に記入する。さらに必要と認められた人には、抗原検査とPCR検査を行うなど、感染症予防対策を徹底している。

利用者に共感できる人 に働いてもらいたい

利用者は高齢者だけに新型コロナウイルスに罹患した場合、重篤化しやすい。そのため外来者の面会や外部との出入りなども、きめ細かな予防対策が施されている。

かぶらの里の施設長須賀博之氏は、職員の健康管理について次のように語る。

利用者さんを手で支えたりするので、腰痛に悩まされる方が多いですね。医師の指導に基づき、早期の治療を進めています。人々との関わりが多いので、メンタルヘルスケアも重要です。悩み事は何でも相談するように指導しています。健康あってこそ、利用者さんへのサービスが向上すると思います。

体調不良は、利用者様への迷惑につながるので、早期発見早期治療を目指して指導しています。



神戸 洋一 理事長

社会福祉法人 しもにた会

特別養護老人ホーム

設立 2002年（平成14年）4月1日

理事長 神戸 洋一

従業員数 76人

〒370-2623 甘楽郡下仁田町下小坂 877

☎0274-82-0222

🌐https://care-net.biz/10/kabura/





例年ぐんまマラソンに社員の半数が出場するため、記念におそろいのTシャツを作った



特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断の全社員受診
- ② 保健師による個別健康指導
- ③ 社内の各種委員会が健康管理活動
- ④ 社員全員のトイレ掃除など自主的に社内の衛生管理



導入の契機

社員の安全と健康のため、産業医や保健師など専門家の指導を受けて改善運動に取り組んでいる。

建築物の金物加工に独自の技術

昭和金属株式会社は、マンションやオフィスビルにつけることが義務付けられている丸環（ロープなどを結ぶ円形の金属部品）、タラップ（梯子や急な階段）などの製造に独自の技術を持つ。この「環製作技術（ステンレス製）」によって「ぐんまの優れたものづくり企業」に選ばれている。

金属加工の技術を生かし、主に建築物の屋外に設置する金属構造物を製造している。加工法、治具など社員同士の工夫や技術開発によるところが多い。社員全体のチームワークを活かし、元気に働ける職場環境の実現に、全員参加で取り組んでいる。

社員全員が5つの専門委員会に入り、健康管理活動に取り組む

全社員が「改善」「もったいない」「安全」「5S」「健康」の各委員会に所属する。特技や希望により自主的に選んで参加、活発な活動を行っている。主に職場内の効率化や生産性の改善、社員の安全、健康に関わる提案をしている。



▲食堂は三密を避けて社員食堂のレイアウトを変更した



▲始業前にラジオ体操を実施。体操後は朝礼を行う

健康委員会は、協会けんぽの生き活き健康事業所宣言のエントリーシートに沿った不適部分の改善、また、5S委員会は、整理、整頓、清潔といった安全や衛生に関する問題点を洗い出す。

安全のために工作機械に防護器具をつけたたり、ラインの動線を工夫して効率化を図ったり、実際に業務に直結する提案が多く出されている。

家族と社会見学をかねてウォーキング

このように、社員全員が自主的に問題点を見つけ、改善する社風がある。健康管理についても、健康診断から再検査まで委員会主導でフォローする。また、再検査や生活習慣病には、保健師の指導により、問題が解消するまで地道な指導を行っている。



▲前橋や高崎など身近な街を家族とウォーキングしている

ので、役員も率先して掃除に加わっている。
安全、衛生意識の徹底から、2020年11月に「無災害記録1000日」を達成した。出勤日のカウントなので、実質4年間無事故ということになる。

当社は、社員の自主性を尊重し、チームワークが良好です。安全面でも社員側の提案や実施事例がたくさんあります。この社風を活かし、安全経営に取り組みたいです。



経理部
神崎 順子部長

昭和金属 株式会社

建築物製造

創業 1983年（昭和58年）8月

代表取締役社長 江原 謙治

従業員数 32人

〒379-2153 前橋市上大島町505-6

☎027-261-6222





効率良く仕事を進めるために一人一人のワークスペースは、余裕を持たせている

社訓の「健康を第一とすべし」を 毎日全社員が唱和

導入の契機

近年掲げた「成電社SDGs宣言」の中で「すべての社員が健康で生き生きと働ける職場作りに努めます」と宣べ、社員が心身共に健康であることを目指す姿勢を示した。それにともない「生き生き健康事業所宣言」にエントリーした。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断に付加健診を加え、生活習慣病を予防
- ② 仕事の効率化を進め、公私ともに充実した働き方・生き方を確立
- ③ 運動部を中心に、健康増進・体力づくりを意識付け



▲SDGs宣言の一部「取組目標8項目」

創業以来「健康第一」を社訓とする

株式会社成電社は、社員の健康が社業の支えと考えてきた。心身共に健康な社員こそが企業活動のベースであるとして、昭和24年（1949）の創業当時から社訓に「健康を第一とすべし」と掲げている。その精神は、近年のSDGs宣言にも引き継がれている。社員の健康は職場だけで

いる。

運動を習慣づける

生活習慣病などの原因の一つに運動不足がある。同社では、毎朝ラジオ体操を行い、社員の基礎的な運動習慣を身につける一助としている。

また「野球部」「マラソン部」を会社の福利厚生制度の一環として設立。部員はもちろん、社員全員の意識向上に努めている。

さらに年3回、社内ゴルフコンペを実施して、社員それぞれの練習や体力増強

のための動機付けに役立っている。

これらの取り組みによって、社員が運動に親しむような機会を作り、それによって少しでも体を動かかし、それが健康に寄与する体制作りを整備している。

健康診断などの結果には、社員の健康状態の改善が現れている。取り組みが大きな成果を上げていることで、業務環境の改善や、社員の意識改革にも成果が見られ、経営上の実績となっている。今後も社訓を踏まえた「健康第一」の経営が同社の方針である。



「SMUZ（成電社ムダゼロ）」活動

仕事と生活をバランスよく調和させるため、生産性向上および業務の効率化を目的とした「SMUZ（成電社ムダゼロ）運動」を推進している。定められた業務時間内、いかに効率的

に仕事をするか、全社員が各部課ごとに取り組む運動である。



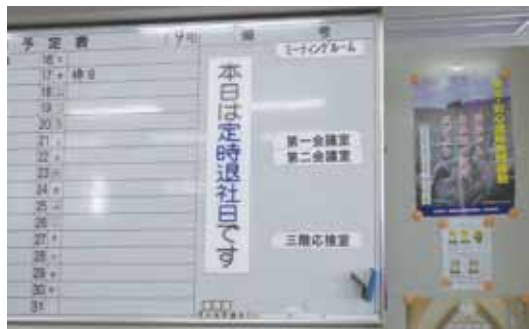
▲社員の目に留まりやすいように月予定表の横に「社訓」を掲示



▲社屋内は全面禁煙とし、喫煙所は社屋外に設けている

各部課ごとの工夫と努力の成果は、年2回の全体会議で発表し、より高い目標に挑む指針としている。また、今年からRPA（Robotic Process Automation）を導入し、事務作業の自動化にも力を注いでいる。

これらの取り組みにより、時間外労働の削減をめざし、充実したプライベートタイムの確保を実現して



▲ノー残業デーの掲示板

当社は時代のニーズに対応し、エレクトロニクスの各分野に進出しています。その基本は高いスキルを持った社員による生産性の向上です。元気な社員こそ会社の宝だという社訓を忘れないように、今後も務めていきます。



総務部
引田 靖宏部長

株式会社 成電社

エレクトロニクス総合商社

設立 1949年（昭和24年）4月20日
代表取締役社長 松田 和樹
従業員数 94人

〒370-0006 高崎市問屋町2-4-3
027-362-5111（代）
http://www.sdnsha.co.jp/



▲2015年に、本社を伊勢崎市から太田市へ移転してから、日頃、生産活動に協力していただいている社員とその家族に感謝を込めて、夏祭りを開催している。（2020年と2021年は、コロナ感染拡大防止のため中止）

社費で用意された飲料。健康サポート飲料が多い▶



のスタッフの配置や、本来の流れに戻るまで時間がかかる。社員の健康は効率的な企業経営の源である。

そのため、社員の健康管理に力を入れている。健康診断の100%受診はもちろん、再検査の実施、35歳以上は人間ドックも選ぶことができる。メンタルヘルスについては、社内の担当者が外部講習を受け、社員に対しセミナーや相談に応じている。

充実した社員食堂のメニュー

生活習慣病予防のため、バランスのとれた食生活に配慮し、社員食堂のメニューを構成している。健康意識を高めるため、メニューにカロリーを表示。また、脂肪、タンパク質など成分表も見ることができ

る。メニューは、健康面プラス食事時間を楽しめるよう

配慮している。例えば「カレールーフエア」、「秋の味覚フエア」など、季節に応じたスペシャルメニューも用意され、レストラン並みの味を誇っている。

心身の健康には、安定した家庭生活が不可欠だ。家族を含めた従業員の親睦に力を入れている。コロナ禍で現在は延期されているが、例年社員と家族を招いた感謝祭を実施している。工場内に大ステージを作り、社員自作の出演が出て、お祭り気分を盛り上げる。家族にとっては、夫や妻の職場を知る良い機会であり、家族同士のコミュニケーションの場ともなる。

健康経営への取り組み

経産省の「優良法人認定」の申請を準備中である。申請を機会に社内の健康状況を細部に至るまでチェックでき現状の把握に役立つ。もちろん認定されれば、対外的な信用度も上



▲「G-WALK+」のアプリ画面

がるため、チームを組んで作業を進めている。

群馬県の提唱する「G-WALK+」アプリの本格的導入に向けテスト中だ。いずれ、全社員がアプリをいれ、運動習慣の改善に役立てる予定である。

新型コロナの影響で、サプライチェーンや物流の混乱が見られます。公衆衛生も基本一人一人の健康で成り立っています。コロナを良い反省材料として、健康経営を見直していきたいと思ひます。



総務部総務課
丹波 真優美課長

千代田工業 株式会社

輸送機器部品の研究・開発・組立

設立 1951年（昭和26年）11月26日

代表取締役 中村 俊雅

従業員数 490人

■本社工場：〒373-0045 太田市神野町457-4

☎0276-57-8180（代）

🌐https://www.cydnet.com/



三密を避けた配置の社員食堂。減塩や低コレステロールに配慮したメニューが並ぶ



特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断を基本に、社員の総合的な健康管理システムを構築
- ② 精神面の健康に配慮し、メンタルヘルスのセミナーを開催
- ③ ノー残業デーを設定してワークライフバランスを心がける
- ④ 生活習慣病の予防のため、社員食堂のメニューをヘルシーな構成に
- ⑤ 社内に血圧計、体重計、体組成計などを設置



導入の契機

生産性アップと品質管理は、健康で生き活きと働く従業員が基盤である。この信念から、健康経営を目指し、総合的な取り組みを行っている。

生産システムが精密であるほど、社員の健康が求められる



▲ストレス解消と健康効果を期待し、職制（課長以上）たちの草刈り隊が夕方より始動

千代田工業株式会社は、自動車を中心とした輸送機器部品を製造している。発注段階から企画に加わり、開発から設計、組立てまで一貫して担当。独自の部品開発のため、充実した研究や試験設備を備えている。

生産システムで最も重要な要素は「人」である。社員一人の病気でも、代わり

健康な社員こそ、

健全な企業経営の源

みなもと



利用者さんのリハビリを兼ねて従業員も一緒にラジオ体操

介護には体力が必要なため 従業員の健康管理が重要

導入の契機

介護の必要な高齢者のサポートをするため、従業員は心身ともに健康が求められている。サービスの質の向上には、健康経営が不可欠である。

特に力を入れている取組内容

- ① 定期健診の全従業員受診
- ② 衛生委員会と職員共済会が協力して健康情報の発信
- ③ 心の健康のために、メンタルセミナー
- ④ 全職員のストレスチェックと産業医によるフォロー



▲社内の取り組みの見直しに役立った健康事業所宣言。現状の把握と課題を把握できた

「からまつ荘」は、社会福祉法人にしあがつま福祉会が運営する介護サービス。介護を必要とする高齢者が入所する特別養護老人ホーム、自宅で介護が難しい人が短期間宿泊するショートステイ、日帰りで来所した方の食事、入浴などを支援するデイサービスセンター、ホームヘルパーが利用者の自宅を訪問して身体介護や調理、洗濯などをサポートする訪問ヘルパー、そして全体の支援計画を調整するケアマネージャー（介護支援専門員）

介護を必要とする高齢者へのサービス事業

一人一人の職員を大事にする経営

介護職員は専門職であり、高齢化社会でニーズが増しているため、人材確保は大きなテーマである。同会は一人一人の従業員を大切にする経営を主眼としている。待遇や働きやすさか

などの事業を行っている。高齢者介護事業を総合的に行うため、各種の施設や設備と、専門訓練を受けた従業員が必要だ。同会の施設群は、長野原町の緑豊かな森の中にある。自分で生活するのが困難な高齢者のお世話をするため、専門知識と技術が必要。支えたり持ち上げたりするため、体力も求められる。

こうしたことから、「か



▲社内の健康管理を話し合う安全衛生委員会



高齢の利用者が多いので施設内の衛生管理には特に注意している▶

ら定着率が高い。よりよい職場環境のため、健康管理には特に力を注ぎ、職員が長く元気で働くための環境づくりを目的に、協会けんぽの「生き生き健康事業所宣言」を行った。健康診断の受診はもちろんだが、再検査もほぼ100%。職員の平均年齢が50代ということもあり、特定保健指導、生活習慣病などの改善に努めた結果、体重コントロールを意識する職員が増えてきた。各部署から委員を出し、安全衛生委員会を設置している。目標の設定や、職員への健康情報の発信などを行っている。

利用する方を第一に考えると、職員の健康管理が重要になる

同会を利用する方は特別養護老人ホームの場合、要介護度3以上が原則条件なので、日常生活の各場面で困難を感じる方がほとんどだ。世話をかけたくな

いと思って自分でやって失敗する、という方もいる。まず、利用者の気持ちを理解し、人間性を傷つけないような言動は慎まなくてはならない。また、認知症を持つ方も多いため、コミュニケーションにも工夫が必要だ。

かぶらの里の竹田仁道施設長は「自分や家族が高齢になったら、と考えてお世話するように指導しています。前向きな気持ちで仕事をするため、心身の健康が不可欠ですね。自分の体調不良で利用者さんの対応がおろそかになってはいけません。そうした意味でも、健康経営の大事さを痛感しています」と話してくれ

利用者さんが、明るく楽しい生活が送れるような環境づくりを行っています。その前提として従業員の健康管理が必要ですね。



竹田 仁道さん

社会福祉法人にしあがつま福祉会

特別養護老人ホームなど

設立 1992年（平成4年）法人設立登記

理事長 竹内 良太郎

従業員数 77人

〒377-1305 吾妻郡長野原町大字与喜屋1624

☎0279-82-4150

http://www3.wind.ne.jp/karamatu/





研修旅行中の社員と家族

ドライバーが健康で 安心して働ける環境づくり

導入の契機

大型トラックの全国輸送を展開しているため、ドライバーの健康管理が最大の課題。乗車前チェックは当然だが、生活習慣病など幅広い健康管理を行っている。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断、再検査を全員受診
- ② 会社負担で人間ドック
- ③ アルコール、睡眠など、徹底した始業点検
- ④ 講師による健康研修を実施
- ⑤ 「安全室」を設け、ドライバーの健康チェックを行う

完成車輸送のパイオニア

日涉運輸株式会社は、自動車の完成車輸送に50年以上の経験をもつ先駆者である。大型キャリアカーに8〜9台の完成した自動車を積み、各地に搬送している。約80人のドライバーが稼働しているため、全員の健康状態把握と管理は重要な課題である。

本社に「安全室」という部屋を設け、安全・健康チェック業務を集中管理



▲完成車運送に使う大型キャリアカー。1台で8台から9台の搭載力がある

また、各拠点の社員が会う機会が少ないため、研修・親睦旅行を行っている。

健康診断以外に会社負担で全員に人間ドック

幅を広げた健康チェックのため、健康診断と平行して人間ドックを全社員に受けさせている。病気の早期発見が最大の目的だが、実際に初期のがんが発見されたケースがある。早期に治

療し2週間の入院ですみ、現在も元気に勤務している。

ドックに入っていないければ、早期発見は難しかったケースである。同様のケースがいくつかあり、本人以上に家族が感謝している。がんの治療以来、人間ドックは、家族に本人が促されて行くケースが増えた。

長距離、遠方との往復が多いため、各地に営業所を設けている。各営業所には、仮眠室、シャワー、休憩所が設けられ、ドライバーが充分な休息をとれる設備を整えている。

安全で確実な輸送のためには、健康が大前提

同社で健康管理を担当している木村瑞枝専務は「ロジスティックは一方所に異常があれば影響が多岐面に及びます。1台のキャリアカー、一人のドライバーがそれぞれ重要な役割を持っているのです。特にドライバーの健康は何より



▲外部講師を招いて健康研修

重要です。社内では、日々のチェック、健康診断などのデータ管理に万全の対策を講じています。でも最後はドライバーに直接話すのが効果的です。『野菜を食べなさい』とか、『アルコールは控えめに』とか、口うるさいほど注意します。紙に書いた数字よりも効き目がありますね』と笑いながら語ってくれた。

完成車輸送は、キャリアカー1台で数千万の商品を運ぶこともあります。一瞬の油断が事故を招かないように、日々ドライバーの健康を気にかけています。



総務
木村 瑞枝専務

日涉運輸 株式会社

運送業

創業 1968年（昭和43年）10月

代表取締役 木村 武雄

従業員数 80人

〒373-0821 太田市下浜田町93-1

☎0276-38-2252（代）

🌐http://nisshounyu.co.jp





フリーアドレスのオフィス。スタンディングデスクもあり、腰痛や運動不足の社員に好評だ



▲入口にある健康案内スペース



▲休憩室には血圧計を設置している

特に社員の健康管理は、クライアント企業のお手本になるように取り組み、各種指標で高い実績を上げている。その第一歩として社員の健康状態を把握するため、健康診断は100%受診し、再検査と治療が必要な場合のサポートも行う。産業医のアドバイスについても、会社側から積極的に社員の面談の機会をつくり、心身共に健康を保つような環境作りを行っている。

フリーアドレスで健康に仕事ができるオフィス環境

同社のオフィスは、社員ごとの決まったデスク



▲健康診断は社内で行うため受診率は100%

藤井絹代総務部長は、同社のオフィスのコンセプト

は、空いているところ

を自由に使うフリーアドレ

ス。ノートパソコンやタブ

レット、部署ごとのスマー

トフォンがあり、それらを

持って座ったところがその

日の自分のデスクになる。

また、立って仕事ができる

ようにスタンディングデス

クが用意され、気の向いた

ときに立って仕事をする社

員も多い。

藤井絹代総務部長は、同

社のオフィスのコンセプト

について次のように説明する。

「座った作業が多く、腰痛やストレスなどを訴えるケースが目立ちました。業務の効率化も考え『自分のデスク』を無くし、好きなところ、立って仕事をしてもOKというレイアウトにしました。毎日が新鮮な環境で仕事ができるので、ストレスは減っていますよ。若い社員は1日の半分を立って作業したりしています。自由な環境がよい発想を生んでいます」

データは利用しなければ価値が無い

財務や労務などのコンサル業務では、多量のデータを的確に管理しなくてはならない。同社では、紙とデジタルを融合させた「藤井式ファイリングシステム」を構築。情報を個人が抱え込まず、誰もが迅速に検索、活用できるようにした。

健康データもただ保存す



▲ファイル収納庫。独自のシステムでデータの効率的な管理

「最近、群馬県公式アプリの『G-WALK+』を導入しました。楽しみながら運動できるのでスタッフにも好評です」と藤井部長は話してくれた。

経営支援は、財務・人事からIT化、オフィスのセキュリティ、レイアウトまで及びます。社員の健康管理は、その中で欠かせない要素です。元気で健康に働ける環境は、企業の実績はもちろん、社会的責任でもあります。



総務部
藤井 絹代部長

株式会社 藤井経営

経営コンサルティング

創業 1967年（昭和42年）

代表取締役 藤井 泉

従業員数 8人（グループ計70人）

〒372-0801 伊勢崎市宮子町3220

0270-25-7696

http://www.fcmg.co.jp/



▲社長を囲んで

企業や団体のお手本になるような健康管理を実践する。株式会社藤井経営は、1967年税理士事務所としてスタートして以来、財務、税務、人事・労務、ITなど、経営全般にわたる支援業務を行ってきた。企業だけでなく、医療、農業分野のコンサルタントにも早くから取り組み、事業運営のあらゆるノウハウを提供できる企業として厚い信頼を得ている。

企業経営の魁として、

健康管理を重視



始業前のラジオ体操で体をほぐす社員

倉庫内で働く従業員の

健康と安全の確保

導入の契機

倉庫内の製品移動や積み替えなど、集中力を要求される作業が多く、安全管理はもちろん、メンタル面の健康管理に力を入れている。

特に力を入れている取組内容

- ① 全従業員の健康診断と再検査
- ② 効率的な業務遂行でワークライフバランス
- ③ 敷地内で野菜栽培、収穫物を社員に支給

アパレルから倉庫業への業種転換に成功

終戦後まもなくスタートしたマルエス合資会社は、産業構造の変化に対応し、自社倉庫と協力物流会社を連携させた倉庫業に業務転換した。その後効率化を図りつつ、スムーズな商品の移動、管理、情報提供など付加価値をもった倉庫業務へと進化し、現在に至っている。一昨年は桐生市の約2万坪の敷地に移設。本社機能も移転中である。

現在扱っているのは、主に布で生産国から来た製品を、倉庫内に収納し、クライアントの発注に応じて必要な製品を揃えて運送会社のトラックに積み込む。受け入れる製品は、材質、折り方、サイズなど膨大な種



る。軽量なのでバッテリーは一晩の充電で1日動き、今では業務に欠かせない装備になっている。冬場は防寒具の着用ですむため問題は少ない。

協力企業に合わせたワークライフバランス

最近の傾向として、運輸会社の集荷時間が早くなり、以前のように夜遅くまで待ってくれなくなった。夜まで仕事をして遅い時間に発送できたのが、現在は午後5時までの発送に変



▲社内の菜園で手入れをする社員

倉庫内の熱中症予防にファン付きベストを支給

従業員は倉庫内の作業が主体となる。広大な空間でエアコンが効かない。その夏場の熱中症対策が重要だ。水分・塩分補給は当然だが、社員全員に「ファン付きベスト」を支給。ベストにバッテリーで駆動する小型ファンが付いたもので、冷却効果が高い。暑い場所の作業に効果を発揮す

別がある。何処にどのように収納するかで、発送するときに効率が大きく違ってくる。分類や収納にはロジスティックスの理論に経験則を織り込み、独自のやり方で整理している。

的確迅速な商品移動が不可欠なため、従業員の安全に配慮し、同時に生き生きと健康に働ける環境作りに努めている。その結果、倉庫内の重大事故はゼロを維持している。

従業員は倉庫内の作業が主体となる。広大な空間でエアコンが効かない。その夏場の熱中症対策が重要だ。水分・塩分補給は当然だが、社員全員に「ファン付きベスト」を支給。ベストにバッテリーで駆動する小型ファンが付いたもので、冷却効果が高い。暑い場所の作業に効果を発揮す



▲ロジスティックスの観点で倉庫業務に取り組んでいる

倉庫業は同じ敷地、スペースでも、配置や収納の仕方で効率に大きな差が出ます。積極的に創意工夫をする社員が、気持ちよく働ける健康経営を目指します。

健康と親睦のため、社内菜園で野菜を育てている。収穫物は、社員に配布し、家族にも喜ばれている。

マルエス 合資会社

倉庫業

創業 1947年（昭和22年）9月1日

代表社員 小島 雅典

従業員数 15人

桐生事業所：〒376-0013 桐生市大沢町6-274-1

☎0277-46-8513

🌐http://www.maruesusouko.co.jp



小島 雅典代表社員



製造部では、清酒、洋酒の他、アルコール製剤も作られている

社員の健康から、安全で おいしいお酒が生まれる

導入の契機

お酒、アルコール製剤など、信頼性が重視されるため、社員の健康管理には、最大限の注意を払っている。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断の受診率100%
- ② 再検査や精密検査の徹底
- ③ 製造部は、始業時チェックで健康・健全を確認
- ④ 心の健康のために、ストレスチェックを重視
- ⑤ 社員が悩みを相談しやすい職場環境づくり

群馬の誇る銘酒、衛生管理に不可欠なアルコール製剤

美峰酒類株式会社は、群馬県を代表する銘酒の製造メーカー。清酒をはじめ焼酎やリキュール、ブランドー、ラムなどの洋酒、また、アルコール製剤を生産している。お酒はもちろん、食品の消毒などに使うアルコール製剤も、安全性が絶対の条件であり、生産現場の衛生管理には特段の注意を払っている。

こうした安心安全の食品づくりには、社員の健康が



▲健康事業所宣言書。宣言にあたっては、社内体制のチェックを行い、課題ポイントを改めた

始業時チェックで早期の発見と対処

欠かせない。協会けんぽの「健康ベースプラン」を参考に、社内体制の見直しを行い、徹底した健康管理に努めてきた。

ベースとなる健康診断は、100%受診。来社した健診バス、社内3カ所の会場を設け、効率的な健診体制を整えている。再検査も各人の自覚に待つだけでなく、会社からの働きかけで対応している。

製造部では入室時の検温、消毒はもちろん、部門の責任者が対面で確認を行う。安全衛生委員会には組合も加わり、月一回会議を催す。時期ごとの課題として夏場の熱中症や花粉症対策、流行性感冒などが取り上げられ、対策案を提案す



▲入口での体温測定と消毒は基本動作



▲水分補給のため、会社から製造部社員に支給されている水筒

糖分の取りすぎ防止や、水分補給のため、ウォーターサーバーや健康ドリンクを用意するほか、製造部社員全員に魔法瓶型水筒を支給し、健康に良い飲料を入れて手軽に飲めるようにしている。

製造部社員全員に水筒を支給

社員が同僚や上司に健康や職場の問題を相談できる「風通しの良い社風づくり」を推進している。新型コロナウイルス前は、懇親会などを



▲食品メーカーなので、衛生面には特に注意が払われている

新型コロナ以後、生産量が増えたアルコール製剤▶



アルコールは発火性のある危険物でもあるので、安全性には特に心がけています。お客様により製品をお届けするには、心身ともに健康な社員であることが、条件だと思います。今後とも健康経営に努めてまいります。



総務課
清水 真紀さん

美峰酒類 株式会社

酒類、アルコール製剤製造販売

創業 1941年(昭和16年)10月

代表取締役社長 萩原 哲夫

従業員数 63人

〒370-0807 高崎市歌川町1

☎027-322-2155

🌐http://www.mihoshurui.co.jp/





同社の高い技術は、群馬県の「一社一技術」に選ばれた

従業員が

元気で働ける環境を整える

導入の契機

創業以来大きく伸びてきたのは、元気に働く従業員のおかげであると認識し、今後も従業員を大事にした職場環境の整備に努めていく。

特に力を入れている取組内容

- ① 全従業員の健康診断を実施
- ② 気持ちよく働ける環境を実現
- ③ QCサークルで社内コミュニケーション
- ④ 会社負担でインフルエンザ予防接種
- ⑤ 安全衛生委員会が熱中症対策など職場環境改善

群馬県一社一技術 選定工場

株式会社ミヤマ電子は、半導体装置に欠かせない高密度配線に高度な技術を持つ。群馬県の提唱する「ものづくり立県」の『一社一技術』に、「高密度半田付配線技術」で申請、選定工場に選ばれている。

同社は、自動化が難しい基板へのケーブル半田付けに独自の技術を持ち、他社の追随を許さない。その他の



▲チップや基盤のケーブル配線分野で高い地位を占めている



▲夏場の熱中症対策のため、水分、塩分補給を実施

にも、微細チップ搭載基板の設計や製造に高い技術があり、ユーザーの信頼を得ている。

こうした技術開発や生産ノウハウを持った社員が、健康で元気で働けるように、協会けんぽの「健康ベースプラン」を参考に、取り組みを行っている。

社内の各組織が積極的な推進

同社内には、役割別に各種委員会が組織され、活発に活動している。安全衛生委員会は、夏場の熱中症対策に、ウォーターサーバーを設置、塩分



▲パルスオキシメーター、PCR検査キット、マスクなどコロナ感染を意識した「ヘルスコーナー」



AEDを設置し、人命救助にあたるよう普通救命講習を受講▶

補給のできる補助食品などを用意している。QCサークルは、生産性向上はもちろん、チーム内の助け合いや、発表会後の懇親会、社員旅行、家族参加のバーベキューなども企画している。SDGs委員会は、省エネのためグリーンカーテンを設置、同時に野菜を栽培して青果物を社員に配布している。

自衛消防団は、設置済みのAEDのチェックや、社内での使用法の講習を行い、社員がノウハウを共有できるようにしている。このようなチーム活動は、社員の自主性を引き出し、健康意識の向上に役立っている。

新型コロナ感染対策と今後

新型コロナウイルスを「重大災害」と捉え、感染防止、クラスター発生防止に努めている。そのため、パルスオキシメーターを設置、抗原・抗体反応・PCR検査キットを常備、陽性者の早期発見に寄与している。各所に消毒用具、出入り口に体温モニターを置き、予防を図っている。

今後は社員が習慣的に運動をするように、ストレッチやヨガなどを提唱していく。同時にメンタルヘルスチェックの導入も検討中だ。

当社の成功は、優れた従業員が力を合わせて努力した結果です。従業員の健康増進は、経営上の大きな使命と捉え、元気で生き生きと働ける場にしていきたいと考えています。



営業部
松川 浩志部長

株式会社 ミヤマ電子

半導体試験装置製造／電子計測機器製造

設立 1982年（昭和57年）4月

代表取締役社長 坂本 好弘

従業員数 46人

〒376-0123 桐生市新里町武井229-1

☎0277-30-6133

🌐http://miyamadensi.co.jp/





新型コロナウイルス感染対策を実施して行われている社内研修

社員の健康アップで効率経営

導入の契機

経営の効率化のためには健康な社員が元気で働ける環境が不可欠。そのため、協会けんぽの「健康ベースプラン」を健康管理に取り入れてきた。優良事業所認定など、目標を掲げることで成果を実感できる仕組みをつくっている。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康経営優良法人認定への取り組み
- ② 定期健康診断100%受診
- ③ 生活習慣を改善し、健康寿命を伸ばす
- ④ 健康事業所宣言を推進

健康経営優良法人
2021に認定

株式会社山田工務所は、建築設計や測量など多彩な職場領域を持ち、それに応じた健康管理を行っている。通常から社員の健康意識を高め、具体的に成果を出せるような取組みを行ってきた。その結果が評価され認定された。

健康診断の受診率は100%、健診結果に応じて再検査の必要な社員もほぼ全員が受診している。再



▲朝礼の様子

検査は個人的事情などで、つい先延ばしされがちだ。勤務時間などを調整し、受けやすい環境を整えている。

「伸ばそう、健康寿命セミナー」実施

本当の健康は、数値に表れる表面的なものだけではない。元気で働き、充実した家庭生活やプライベートを楽しむ健康寿命が重要である。同社では「健康寿

命セミナー」を社内で行い、全社員が受講して健康意識を高めている。あらかじめアンケートを採り、社員一人一人が自身の問題点を理解した上での受講なので効果も高い。セミナーでは、極力身近な話題を取り上げてもらい、生活習慣の改善などに役立っている。

生活習慣の改善は、各人の自覚が大事だ。そのため、健康シートなど調査を実施し、問題点の掘り起こしを

「社員に健康を意識させる事が大切」

社内には、アルコール消毒はもちろん、血圧計など各種の測定器を配置、「健康経営優良法人2021」（経済産業省）や、各種の取り組みを掲示するコーナーも設け、社員へ周知させるため、社内研修を行っている。

同社の山田弘道社長は「まずは社員の自覚が大事ですね」と語る。

「深酒やたばこ、偏った食事などが健康に良くない、ということとは誰もが知っています。その情報が具体的な行動につながるかどうかは別問題です。やはり、自分の健康は、自身や家族、会社同僚など多くの



▲血圧や体重は社員がいつでも自由に測定できる



人に関わり、また将来につながる、という自覚が決め手です。元気で生き生き暮らすためには健康がベース、と本気で自覚すれば、必ず成果につながっていくと思います」と山田社長は語ってくれた。

経営の効率化のためにも、社員の健康管理に努めていきます。協会けんぽの健康ベースプランを、今後の基準にして、より高いレベルを目指したいと思います。



山田 弘道社長

株式会社 山田工務所

建築設計／測量

創業 1929年（昭和4年）4月

代表取締役 山田 弘道

従業員数 15人

〒371-0024 前橋市表町2-9-15

☎027-221-3889

http://www.ymd-k.jp





健康管理の中心となる「保健室」。独立した建屋で、子どもたちが親しめるデザイン

職員の健康から、 安心・安全な保育が始まる

導入の契機

多様な性格と健康状態の子どもたちを保育するため、職員の健康意識を高め、「自分の健康は園児のため」を自覚して職務に当たるため。

特に力を入れている取組内容

- ① 健康診断の100%受診と、再検査も同様に
- ② 安全衛生委員会を中心に、保健衛生に取り組む
- ③ 職員看護師が常に園児と職員の健康管理
- ④ 独立した保健室を設け、相談や休息にあてる
- ⑤ 子どもたちを守るために、徹底した衛生管理

子どもはとにかく元気

若葉保育園は70年以上の歴史をもつ私立の保育園。現在68人の園児を21人の職員が保育している。ゼロ歳児から預かっているため、授乳の世話から、園内を走り回る幼児まで、いろいろな成長段階の子どもたちに対応している。

保育には養護と教育の両面がある。自分一人で食事ができない幼児の介護



▲園児と職員が運動する屋根付き通路。雨の日でも体を動かせる

体調不良のときは「保健室」で看てもらおう

をする。また、外で遊んだ後の手洗いや消毒をする、といった健康の基礎を教える。こうした保育活動は、結果的に健康で衛生的な生活習慣の習得につながる。園児の目は、いつも職員に注がれているため、職員は園児の手本となるような行動が求められる。そのため、衛生習慣はもちろん、徹底した健康管理を行っている。特に健康、安全、衛生担当の職員看護師を置いている。

園内に独立した建屋の「保健室」を設けている。かわいらしい魔法の家のようなデザインで、園児が親しみやすくしている。園児のちょっとしたケガの治療や、体調不良を訴えた子の対応などに使うことが多い。別に、職員の健康データの管理なども「保健室」で行っている。



▲園内の安全や衛生を確保するために、看護師が職員と相談している



▲看護師が、職員の健康相談に当たっている

職員の健康の基礎となる

健康診断は100%受診、再検査も同様だ。そのデータをもとに、安全衛生委員会が園内の問題点を洗い出して解決に当たる。

運動不足による生活習慣病などの問題は、普段から子どもとよく動いたため、むしろ過労が問題となる。

「おんぶ」や「だっこ」をしたがる子が多いので、筋肉痛、腰痛を訴える職員が多い。看護師が腰痛予防のストレッチ体操を指導、また、休息をとれるように水曜日は「ノー残業デー」を設けている。

子どもは、元気な保育士さんが好き

同園で健康管理に当たる看護師の高橋恭子さんは「子どもたちは基本元気です。だから明るく元気な保育士さんが好きなんです。一緒に庭で遊んだり、折り紙をしたり、全部保育士さんが率先して動く必要があります。心身の健康が職務



▲「おんぶ」「だっこ」で腰痛に悩む職員さんに、ストレッチ体操指導

の前提ですね。また、新型コロナウイルス以前から、衛生や清潔には特に気を遣っています。手洗いや消毒は、幼児の時から身につける習慣ですね。より徹底した衛生観念を心がけています。毎日園児と元気に過ごせる職員を目指して頑張っています」とと保育園の健康管理を語ってくれた。

小さな年齢の子どもたちを預かっている中で、特に職員の健康には気を遣っています。園児の健康は、職員の健康から、というのをモットーに取り組んでいきたいと思っています。



看護師
高橋 恭子さん

社会福祉法人 若葉福祉会 若葉保育園

私立保育園

開設 1948年（昭和23年）

理事長・園長 吉池 務

職員数 21人

☎ 370-0834 高崎市南町1-5

☎ 027-322-0205

🌐 <https://www.gunma-hokyou.com/page.php?eid=277>



「生き生き健康事業所宣言」をして、 健康経営を始めましょう！

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/gunma/cat070/20190410020/>



詳細は
ホームページで
ご覧いただけます

お電話でのお問い合わせは

全国健康保険協会群馬支部 企画総務グループ

電話番号 027-219-2100（代表） ※ガイダンス⑤番をお選びください。

交通のご案内



① 前橋駅北口より徒歩10分【本町バス停前】

② 駐車場 P1～P6 をご利用の場合は、利用券をお渡しします。駐車券をお持ちください。

P1 群馬パーキング（セブンイレブン奥）※ 群馬パーキングはセブンイレブンの奥にございますので、セブンイレブンへの駐車はご注意ください。
P2 K' BIX パーキング元気 21
P3 K' BIX パーキング千代田 P4 市営パーク五番街
P5 前橋中央駐車場 P6 広瀬川サンワパーキング

健康経営事例集 — 令和3年度群馬県内実践企業 —

発行：令和3年11月1日



全国健康保険協会 群馬支部
協会けんぽ

〒371-8516 前橋市本町 2-2-12 前橋本町スクエアビル 4 階
TEL.027-219-2100（代表） FAX.027-219-2106

INDEX

健康経営キーワード別索引

ご紹介した健康経営の事例は、キーワード別でも検索できます。

キーワード	ページ	FNo.	企業名
健診（再検査等を含む）の工夫	3	FILE 02	三陽技術コンサルタンツ株式会社
	7	FILE 04	社会福祉法人しもにた会
	15	FILE 08	社会福祉法人にしあがつま福祉会
	17	FILE 09	日涉運輸株式会社
	19	FILE 10	株式会社藤井経営
保健指導の工夫	1	FILE 01	株式会社板垣
	3	FILE 02	三陽技術コンサルタンツ株式会社
	9	FILE 05	昭和金属株式会社
	23	FILE 12	美峰酒類株式会社
	25	FILE 13	株式会社ミヤマ電子
	27	FILE 14	株式会社山田工務所
栄養改善	1	FILE 01	株式会社板垣
	13	FILE 07	千代田工業株式会社
運動（ラジオ体操・その他スポーツ）	1	FILE 01	株式会社板垣
	5	FILE 03	システムセイコー株式会社
	9	FILE 05	昭和金属株式会社
	11	FILE 06	株式会社成電社
	15	FILE 08	社会福祉法人にしあがつま福祉会
メンタルヘルス対策	3	FILE 02	三陽技術コンサルタンツ株式会社
	7	FILE 04	社会福祉法人しもにた会
	19	FILE 10	株式会社藤井経営
	23	FILE 12	美峰酒類株式会社
	29	FILE 15	社会福祉法人若葉福祉会若葉保育園
セミナー・研修、健康情報提供	1	FILE 01	株式会社板垣
	3	FILE 02	三陽技術コンサルタンツ株式会社
	5	FILE 03	システムセイコー株式会社
	15	FILE 08	社会福祉法人にしあがつま福祉会
	17	FILE 09	日涉運輸株式会社
コミュニケーション （親睦会・サークル活動・あいさつ）	27	FILE 14	株式会社山田工務所
	1	FILE 01	株式会社板垣
	5	FILE 03	システムセイコー株式会社
	13	FILE 07	千代田工業株式会社
	17	FILE 09	日涉運輸株式会社
経営計画・SDGs	21	FILE 11	マルエス合資会社
	25	FILE 13	株式会社ミヤマ電子
	11	FILE 06	株式会社成電社
	13	FILE 07	千代田工業株式会社



全国健康保険協会 群馬支部
協会けんぽ

〒371-8516 前橋市本町 2-2-12 前橋本町スクエアビル 4 階
TEL.027-219-2100 (代表) FAX.027-219-2106